

認知症になっても安心して生活できるよう

★認知症初期集中支援チーム

★認知症地域支援推進員

がお手伝いします！



認知症初期集中支援チームとは？

支援につながりにくい認知症やその疑いのある方のご家庭の相談に対して、保健師・看護師・社会福祉士等の多職種の専門職で構成されたチームが対応策を話し合い、病院受診や介護サービス利用、ご家族の介護負担軽減など必要な支援につなげていきます。

チームを認知症サポート医がバックアップしています。



対象となる方は？

40歳以上の在宅生活をしている方で認知症状などでお困りの方。

例えば・・・

介護サービスを利用したいがうまくつながらない。

認知症による症状が強く介護や対応に困っている。



認知症の診断を受けたいがうまく受診につながらない。

医療や介護のサービスを利用したいが、どうしたらよいか分からない。

相談窓口は？

お住まい地区の地域包括支援センターまたは市役所高齢課にご相談ください。

相談窓口	連絡先	担当地域
地域包括支援センター 而今	☎685-3294	喜連川全域、押上、長久保、蒲須坂、松島、箱森新田、松山新田
地域包括支援センター エリム	☎681-1150	上記地域を除く氏家地区
市役所 高齢課	☎681-1155	市内全域



認知症に関してお悩みの方は是非ご相談ください

認知症地域支援推進員とは？

認知症になっても安心して生活できるように、認知症の正しい理解や対応方法、認知症予防等の普及啓発活動や認知症予防教室の企画・運営を行って地域の支援ネットワークづくりをしています。「認知症サポーター」の養成講座も活動の一つです。



認知症サポーターってなに？

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を暖かく見守り、できる範囲で支援する応援者で、認知症サポーター養成講座を受講した方がなれます。認知症サポーターにはその証としてオレンジリングをお渡ししています。市内でも毎年新たに認知症サポーターが誕生しており、認知症の方やその家族が安心して暮らし続けることのできる地域づくりのための一員となっています。



学校



職場



地域

令和2年6月末現在 さくら市認知症サポーター 5,425名



家族が作った認知症早期発見の目安

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を「認知症の人と家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中で目安として参考にしてください。気になることがあれば、お気軽に相談窓口までご相談ください。

- **もの忘れが目立つ** : 今切ったばかりの電話の相手の名前を忘れる。
通帳、財布、衣類等を盗まれたと疑う
- **判断・理解力が衰える** : 新しいことが覚えられない。話のつじつまが合わない。
料理、計算などのミスが多くなった。
- **時間・場所がわからない** : 約束の日時や場所を間違えるようになった。
慣れた道でも迷うことがある。
- **人柄が変わる** : 些細なことで怒りっぽくなった。日課や趣味をしなくなる。
意欲がなくぼんやりしていることが多い。
- **不安感が強い** : 外出時に持ち物を何度も確かめる。
「頭が変になった」と本人が訴える。
- **意欲がなくなる** : 下着を替えず身だしなみを構わなくなった。
ふさぎ込んで何をすることもおっくうがりいやがる。